

経理的な基礎—②経理処理、財産管理の適正性、③情報開示の適正性

②経理処理、財産管理の適正性

必要な会計帳簿を備え付けていること

- 経理規程第10条に記載の通り、会計帳簿、収支予算書、財務諸表等、会計伝票等について、法令で定められている年数の間、備え付けることを定めている

民間公益活動促進業務に関する経理と
その他の業務に関する経理とを
区分して整理すること

- 民間公益活動促進業務に関する経理とその他の業務に関する経理とを区分して整理を行っている

会計監査人を設置する旨を
定款で定めていること

- 定款第24条5項に記載の通り、会計監査人を設置する旨を定めている。なお、設立時において、赤坂有限責任監査法人を設立時会計監査人に選任している

法に規定する収支予算書及び
収支計算書については
公認会計士又は監査法人の監査意見を
付すことを諸規程等に定めること

- 法に規定する収支予算書及び収支計算書については、資金収支表ベースのものとしており、収支計算書については、定款第28条1項に記載の通り、監査意見を付すことを定めている

③情報開示の適正性

監事のうち少なくとも1名が
公認会計士又は税理士であること

- 監事の中田ちず子は、公認会計士及び税理士である

情報公開、情報管理の
適切な仕組みの構築

- 管理・企画部長及び監査室長は公認会計士である
- 情報公開と管理の詳細については次ページの中立・公正性（P.64～74）を参照

経理的な基礎を形成するステークホルダー

- 下記のステークホルダーで適切な経理的基礎を形成している。

役職	氏名・名称	略歴
監事	中田 ちず子	<ul style="list-style-type: none"> □ 公認会計士・税理士 □ 公認会計士、税理士としての実務経験が30年以上あり、特に公益法人、財団法人、医療法人や地方公共団体等の会計・税務に専門性がある。
管理・企画部長		
監査室長		
顧問税理士		
会計監査人	赤坂有限責任監査法人 [Redacted]	<ul style="list-style-type: none"> □ 2008年に、日本で2番目の有限責任監査法人として設立された。 □ [Redacted]

※本ページには公開に基づき当法人及び個人に不利益が生じる個人情報が含まれています。公開にあたっては弊財団と協議願います。



Ⅱ. 業務実施にあたっての基本的考え方、体制・能力の適確性



iv) 技術的（専門的）な基礎

技術的（専門的）な基礎

- 弊財団が掲げる民間公益活動推進業務計画を適確に実施するに足る技術的な基礎の担保として、弊財団は以下のそれぞれ項目において技術的（専門的）な知識、能力、実績を誇る役職員を配置し、業務の遂行を行う。
- 多様かつ専門的な実務経験をもつ役員・職員が知を結集し、部署を超えて協働することで厚みのある技術的（専門的）な基盤を構築している。

<p>1 民間公益活動やソーシャル・イノベーションに関する十分な知識を有するほか、助成を行った実績を有するなど、民間公益活動促進業務を適確に実施するために足る知識・技術を有する役職員をおくとともに、必要に応じた外部の専門家等を活用すること</p>	<p>民間公益活動やソーシャル・イノベーションに関する十分な知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 民間公益活動や日本のイノベーションのロールモデルを構築した経験 □ イノベーションを生み出す人を支援した経験 □ 国内外のネットワークを活かす基盤
<p>2 特に、資金分配団体になり得る団体に関する十分な知見やネットワーク等を有すること、非資金型支援を必要に応じて外部の団体や、専門家とも連携しつつ、伴走型で提供できる能力を有すること、ICT等を損家欲的に活用すること。</p>	<p>助成を行った実績（公券要領の作成や審査、選定経験の有無）</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 国内の助成財団における実務の経験 □ 企業やNPOによる助成や融資の実務経験 □ 海外での助成実務の経験
<p>3 案件組成・案件発掘能力を有すること及び科学技術分野の動向に知見を有することが認めら得ることが望ましい。</p>	<p>資金分配団体になり得る団体に関する十分な知見やネットワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 資金分配団体になりうる団体や関係団体とのネットワーク □ 資金分配団体になりうる団体を実際に支援した経験
	<p>非資金的支援を必要に応じて外部の団体や専門家とも連携しつつ伴走型で提供できる能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 非資金的支援を含む助成運営の経験 □ 伴走支援を行う専門家をマッチングした経験 □ 起業家・専門家としての知見を活かした非資金的な介入・人材育成
	<p>ICT等を積極的に活用できるための知見・能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 開発者としての経験 □ 業務改善・社会課題解決のためのユーザーとしての経験
	<p>案件形成・案件発掘能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 社会のニーズに応えるために案件をゼロからつくる能力 □ 既存のリソースやチャンス、強みを活かした協働型の案件組成能力
	<p>科学技術分野の動向に関する知見</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 実務家・専門家として科学技術分野の動向を把握・理解する能力 □ 先駆的知見を日常的に収集する人脈・体制

技術的（専門的）な基礎:

① 民間公益活動やソーシャル・イノベーションに関する十分な知識

- 弊財団の役職員はほぼ全ての役職員が営利・非営利等所属の特性を問わず、以前からソーシャルイノベーションの創出に実務家・専門家として関わっており、本分野に関する十分な知識を備えている。
- 特にソーシャル・イノベーションについては、弊財団自身の役職員がイノベーションを牽引し、日本初・業界初の事例を生み出してきた。
- またイノベーションを誘発する人材の育成支援の実践経験も豊富で、国内外の民間による公益活動と繋がるネットワークを有している。

<民間公益活動やソーシャルイノベーションに関する技術的な基礎>

	内容	弊財団関係者の実践例・知見
民間公益活動や日本のイノベーションのロールモデルを構築した経験	<ul style="list-style-type: none"> □ 評議員・理事には、 <ul style="list-style-type: none"> ● 日本初のビジネスモデルの創出経験のある経営者 ● 科学技術のイノベーションに携わる研究者 ● 国際的な社会起業家のICTイノベーションのプラットフォームの創設に関与した人材 ● 民間公益活動において長年指導的立場にいた人材 □ などが豊富に在籍している □ 職員にも、社会課題解決を企業の社会貢献として実践してきた実践者や、民間公益活動を助成事業の立場からかかわってきた経験者が在籍している □ 委員会委員にも社会イノベーションの創出経験者がいる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 専務理事はメガバンクで日本初のソーシャルインパクトボンドへの投資を牽引し、八王子市のがん検診受診率向上を企図 □ [REDACTED] □ [REDACTED] □ 評議員は独立行政法人理化学研究所網膜再生医療研究チームリーダーとして、日本の再生医療におけるイノベーションを牽引し、iPS細胞を活用した網膜再生という社会的意義の高い研究を実践
イノベーションを生み出す人材を支援した経験	<ul style="list-style-type: none"> □ 役職員には <ul style="list-style-type: none"> ● 社会起業家の支援・伴走を実践してきた立場 ● 社会起業家として活躍してきた立場、 ● 投資家の立場、 ● 企業CSRをけん引してきた立場、 ● 助成事業を実践してきた立場、 □ など、多様な背景と属性を持つ者が在籍している 	<ul style="list-style-type: none"> □ [REDACTED] □ [REDACTED] □ [REDACTED]
国内外のネットワークを活かす基礎	<ul style="list-style-type: none"> □ 国内外の主要な社会イノベーション創出型ネットワークと民間公益活動団体ネットワークとの連携関係がある 	<ul style="list-style-type: none"> □ 専務理事は直近までハーバード大学で世界の社会イノベーションを研究し、かつ世界的な社会起業家支援組織アショカ財団の日本パートナーを務める □ 実践者ダイアログパートナーには、主要な日本の民間公益活動団体のリーダーが参加

技術的（専門的）な基礎:

① 助成を行った実績（公募要領の作成や審査、選定経験の有無）

- 弊財団には国内の代表的な助成財団において助成業務を担当した役職員が多数在籍し、助成業務を遂行するために必要な技術的基礎を十分備えている。
- 企業やNPOが主催する社会起業家育成、イノベティブな案件への助成、海外において成果志向の助成事業を担当した役職員が多く在籍しており、多様な助成の経験・知見を持ち寄り、従来型の財団には無い助成の形を実現することが可能である。

<助成を行った実績>

	内容	弊財団関係者の実践例・知見
国内の助成財団における実務の経験		<ul style="list-style-type: none"> □ □ □ 評議員はイノベティブな案件への助成に早くから取り組んだセゾン文化財団において、助成プログラム、審査基準の設定、助成や評価の実施などに取り組んできた
企業やNPOによる助成や融資の実務経験		<ul style="list-style-type: none"> □ □ □
海外での助成実務の経験		<ul style="list-style-type: none"> □ 評議員のうちの1名は世界銀行にて様々な社会活動解決に取り組む団体への資金支援の経験を豊富に有する □ □

※本ページには公開に基づき当法人及び個人に不利益が生じる個人情報が含まれています。公開にあたっては弊財団と協議願います。

技術的（専門的）な基礎：

② 資金分配団体になり得る団体に関する十分な知見やネットワーク

- 弊財団の役職員は、実務家・専門家または役員・監事等の立場としてすでに資金分配団体の候補となりうる助成財団や、中間支援組織とのネットワークを有する。
- また資金分配団体となりうる団体の組織や資金分配に関する現状や課題を十分理解し、その知見を休眠預金等の活用・分配の際に活かすことが可能である。

<資金分配団体になり得る団体に関する知見やネットワークの基礎>

	内容	弊財団関係者の実践例・知見
資金分配団体になりうる団体や関係団体とのネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> □ 理事・評議員・監事・職員は資金分配団体になり得る団体の現状を把握している中間支援組織や全国的なネットワーク組織に関わりがあり、情報交換や研修の共同開催などを通じて日常的な関わりを持つ □ こうしたネットワークの結果、現在日本で起きている公益活動にかかる資金分配の現状や課題について十分な知見と前提知識を有している 	<ul style="list-style-type: none"> □ 理事・評議員・監事・職員の中には、下記の通り中間支援組織やネットワーク組織との様々な協働経験とネットワークを有する <ul style="list-style-type: none"> ● 全国コミュニティ財団協会 ● 全国NPOバンク連絡会 ● 助成財団センター ● 公益法人協会 ● 非営利組織評価センター ● 社会的インパクト評価イニシアチブ
資金分配団体になりうる団体を実際に支援した経験	<ul style="list-style-type: none"> □ 職員の中には、プログラムオフィサーやコンサルタント、評価者として資金分配団体になり得る団体を支援したり、リソースを開発した経験があるスタッフが在籍している □ こうした実務者としての経験から、資金分配団体になり得る団体との関わり方やポイント、強み弱みを把握している 	<ul style="list-style-type: none"> □ □ □

技術的（専門的）な基礎：

② 非資金的支援を必要に応じて外部の団体や専門家とも連携しつつ伴走型で提供できる能力

- 弊財団の役職員は、非資金的支援に関するプログラム運営や、実際の非資金的支援を日常的に行っている。
- セクターを超えた支援のマッチングや、実際の伴走を通じて得た経験を弊財団において活用することが可能である。

<非資金的支援を必要に応じて提供できる能力的基礎>

	内容	弊財団関係者の実践例・知見
非資金的支援を含む助成運営の経験	<ul style="list-style-type: none"> □ 職員や評議員は非資金的支援を含む助成プログラムの運営を経験 □ 団体の能力に合わせた伴走支援を設計しコーディネートする能力を有する 	<ul style="list-style-type: none"> □ [Redacted] □ [Redacted] □ 評議員はセゾン文化財団において、団体が自立していくための経営、語学、空間提供等の支援を実施
伴走支援を行う専門家とマッチングした経験	<ul style="list-style-type: none"> □ 職員が自身の事業等を通してプロボノや専門人材のマッチングを行った経験が豊富であり、伴走支援プログラムの検討やコーディネートに活かすことが可能 	<ul style="list-style-type: none"> □ [Redacted] □ [Redacted]
起業家・専門家としての知見を活かした非資金的な介入・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> □ 理事、事務局長、職員が様々なバックグラウンドを持ち、それぞれの専門性や能力を活かし、非資金的支援を実施 □ リーダーシップを発揮して実践を重ねてきた経験を活かし、非資金的支援の充実に寄与することが可能 	<ul style="list-style-type: none"> □ [Redacted] □ [Redacted] □ 管理・企画部長は公認会計士や税務顧問として監査や専門的なアドバイスを行った経験を有する □ [Redacted] □ [Redacted]

技術的（専門的）な基礎：

② ICT等を積極的に活用できるための知見・能力

- 弊財団の役職員はICT等の活用については、以下のように開発者としての経験と業務改善・社会課題解決のためのユーザーとしての経験が豊富にあり、双方の能力や知見を財団の運営やプログラムの充実に役立てることが可能である。

<ICT等を積極的に活用できる知見や能力的基礎>

	内容	弊財団関係者の実践例
開発者としての経験	<ul style="list-style-type: none"> □ [Redacted] □ 助成事務に関する負担軽減・効率化や、情報共有・発信、知の構造化に活かすことが可能 	<ul style="list-style-type: none"> □ [Redacted] □ [Redacted] □ [Redacted] □ 評議員はTwitterの業務において、常に最新のテクノロジーを使った情報や知識の共有・伝達に関わるシステムの開発に取り組み、サービスの充実化やシステムの管理等においてエンジニアやデータサイエンティストを直接指揮した経験を有する □ 評議員はOpencity Foundationでの勤務の際に、途上国の16の自治体にICTを使った電子サイトを構築し、ガバナンスを高める支援をした経験やDevelopment Gatewayで途上国の貧困問題解決のためにICTの導入を行った経験を有する
業務改善・社会課題解決のためのユーザーとしての経験	<ul style="list-style-type: none"> □ 職員は日常業務の効率化や、社会課題解決のためにICTを活用した経験があり、ユーザーとしての経験を財団のICTプログラムデザインに投入していくことが可能 	<ul style="list-style-type: none"> □ [Redacted] □ [Redacted] □ [Redacted] □ [Redacted] □ [Redacted]

技術的（専門的）な基礎：

③ 案件形成・案件発掘能力

- 弊財団の役職員は社会のニーズに応えるために、自ら案件をつくり1から作っていける能力や、既存のリソースやチャンス、強みを活かした協働型の案件組成を行う能力を備えており、社会課題やニーズ、リソースに応じて多様な案件形成を行うことが可能である。

<案件形成・案件発掘能力の基礎>

	内容	弊財団関係者の実践例
06 社会のニーズに応えるために案件をゼロからつくる能力	<ul style="list-style-type: none">□ 評議員、職員は社会のニーズに応えるために、案件組成を行い、プロジェクトや事業を生み出した経験が豊富であり、そのノウハウを財団としての案件形成・発掘へ活かすことが可能である	<ul style="list-style-type: none">□ [Redacted]□ [Redacted]□ 評議員の中には、多数の社会イノベーション事業を創設した経験者や、日本の芸術文化助成財団の中で初めてプログラムオフィサー（PO）制度を導入し、案件形成・発掘は財団のオフィサーの任務であることを明確化した者がいるほか、「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド（GBファンド）」により被災地域の文化復興と地域支援を行う助成事業を立案した経験者もいる。□ [Redacted]
既存のリソースやチャンス、強みを活かした協働型の案件組成能力	<ul style="list-style-type: none">□ ゼロから案件を組成するだけでなく、既存のリソースを協働型の案件を組成した経験も豊富であり、個人・単体組織を超えたインパクトを起こす案件の組成に寄与出来る	<ul style="list-style-type: none">□ [Redacted]□ [Redacted]□ [Redacted]□ 専務理事は融資、M&A、ストラクチャードファイナンス等の案件・発掘経験のほか、アショカフェローと日本企業の協働を推進した経験を有する

技術的（専門的）な基礎：

③ 科学技術分野の動向に関する知見

- 弊財団の役職員は実務・専門的バックグラウンドに紐づくかたちで科学技術分野の動向を把握している者が多く、十分な知見を備えていると言える。

<科学技術分野に動向に関する知識・経験的基盤>

内容	弊財団関係者の実践例
<p>実務家・専門家として、科学技術分野の動向を把握・理解する能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ [Redacted] □ [Redacted] □ [Redacted] □ 評議員が代表を勤めていたTwitter では情報技術の最先端分野に従事し、また、シリコンバレーと日本との経済界の交流を促す民間団体、シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム(SVJP)の日本側代表を務めており、テクノロジーの最前線に関する。さらに、世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターでは、急速に進展する科学技術を社会実装する上での制度的な課題についても、国内外の取り組みに関わっている。
<p>先駆的知見を日常的に収集する人脈・体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 専務理事は在籍中のプログラムを通して、最新の科学技術の動向に関する知識とネットワークを構築していると共に、ハーバード大学や MITの教授陣との接点も確保している □ [Redacted] □ インターナショナルアドバイザーには、世界のICT系のベンチャー企業が集結するStartUp World Cupの主催者があり、シリコンバレーの最新の科学技術や世界の最新の科学技術を活かした課題解決情報を収集することが可能である。



Ⅲ 中立で公正性のある組織運営



中立で公正な組織運営を実現するために

- 弊財団の中立性・公正性を確保するため、右の図に示す取組みを中心に包括的な取組みを行う。
- この取組みを実効的で意味のあるものにし、真に中立かつ公正に休眠預金の資金を活用する財団として社会から信頼されるための前提として、以下の2点が重要であると理解している。
 - 綿密に練られた規程類に基づく制度の整備
 - 公正に制度を運用するための組織体制の整備
- しかしながら、残念なことにこの2点を押さえながらも不正が発生した組織は枚挙に暇がない。最も重要なことは、役職員や委員全員が公益的・利他的な発想を持ち、かつ実践をしてきており、純粹な社会変革への情熱を持つことと、組織としてその文化を作ることであると弊財団は考え、特に役職員採用にあたっては、そのような信頼できる実績を有する者を選定している。
- 諸規程については本申請にあたって資料として次ページの一覧の通り添付している。
- 特に重要と考えられる事項について、次々ページ以降で詳細を解説する。

